

【2018/08/20 管財課 公共施設マネジメント推進室】

《庁内検討経過》

文化会館等施設プロジェクトチームでの検討・調整（H28.6～H30.6）

- ◇ 文化会館等3施設については、更新に伴う事業費や、ランニングコストも含め多額な費用が見込まれることから、公共施設マネジメント計画実行計画の中でモデル事業として位置付け、機能の1館集約を前提に検討を行ってきた。
- ◇ 3施設を同時期に集約することを主眼に検討を行ってきたが、まずは出来るところ「ステップ1」から取り組むこととし、新たな施設の整備については具体的な検討から実現までに多くの時間を有することから「ステップ2」とし、段階的に調整することとした。

↓ 報告

公共施設適正化推進部会・公共施設適正化推進会議・・・以下PT検討結果を了承

↓ 報告

市長説明・・・以下PT検討結果を了承

《 結 果 》

集約にあたって

ステップ1

低利用かつ未耐震である、日光総合会館と藤原総合文化会館を早期に廃止する。

- ・2館とも年間のランニングコストが高額であるため、早期である程、削減効果が高くなる。
- ・各施設の立地上、跡地活用による収益効果を見込める。
- ・跡地活用にあたっては、民間の発想、資金、経営感覚等の民間活力の活用を図る。

ステップ2

今市文化会館を改修して使用するか、全て廃止し、新たな文化会館施設を整備（建替え）するかの方向性を、平成30年度中に調整する。（別紙検討資料2）

- ・今市文化会館を改修して使用する場合、新たに施設建替えと比較すると直近の財政負担を抑制出来るものの、相応の改修費用がかかる。
- ・改修した場合でも20年強しか延命が図れないことから、20年後の施設整備も考慮した場合、40年間のトータルコスト上は、規模を縮小して新たに施設整備した方がコスト縮減できると試算される。
- ・一方で今市文化会館を改修して使用する場合でも、改修期間は1年弱利用制限があり、代替え施設等、影響があることから早急に方向性を判断した上で具体的調整を進める必要がある。

集約に向けた各施設スケジュール（案）※最短の場合

	H30	H31	H32	H33
今市文化会館	改修 or 建替えに向けた検討調整	工事実施設計	工事	
日光総合会館 藤原総合文化会館	跡地活用に向けた検討・調整			施設解体／跡地整備

※日光、藤原の施設廃止後の跡地利用については、地元要望並びに民間の発想、資金等の活用も視野に入れた検討調整を行う。